

DXIT Forum Open Seminar

IPAツールとDXソリューションで 企業のDX課題を解決へ

2023年2月22日

日本電気株式会社 マネージドサービス部門 サービスビジネス統括部
シニアプロフェッショナル 岸本 一実

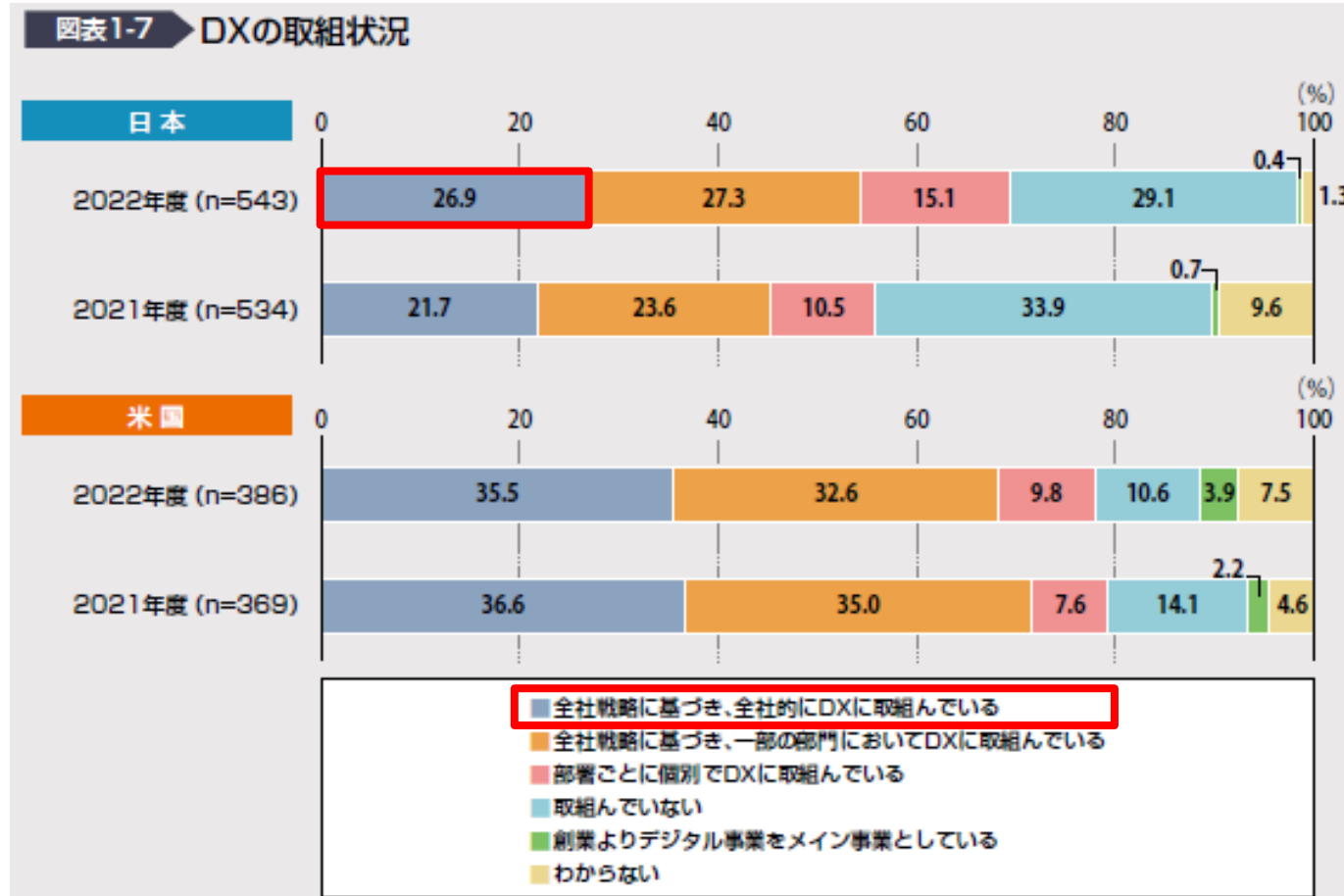
目次

1. 世の中のDXの現状
2. 企業のDX課題の認識
3. IPA／経産省DXツールの利用
(社内利用状況)
4. IPAツール活用事例
5. NECのDXソリューションの紹介

1. 世の中のDXの現状

データで見る、DXの取組状況

既に**全社戦略に基づき、全社的にDXに取り組んでいる企業は、27%程度。**

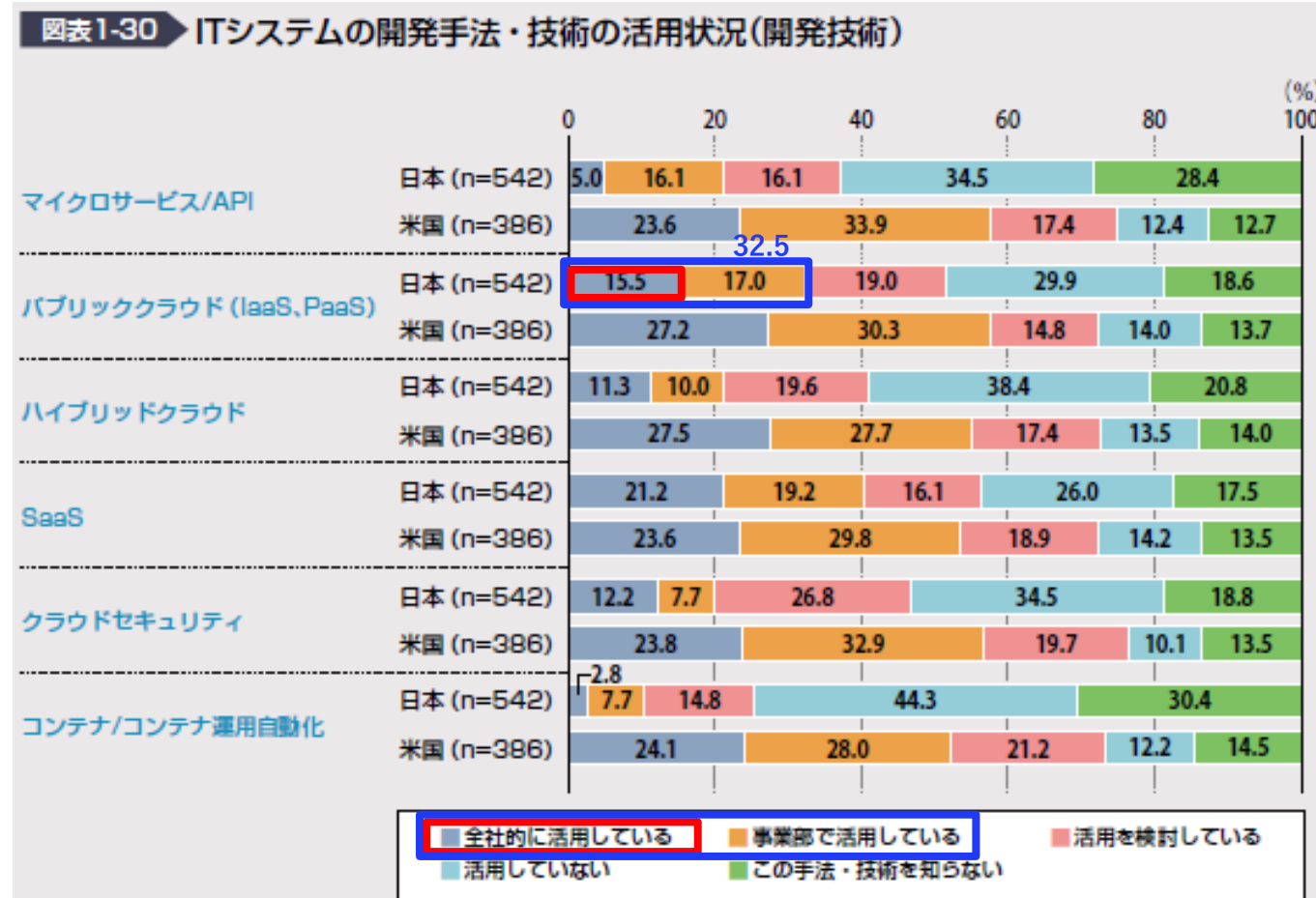


出典：[DX白書2023：IPA 独立行政法人 情報処理推進機構](https://www.ipa.go.jp/publish/wp-dx/dx-2023.html)

<https://www.ipa.go.jp/publish/wp-dx/dx-2023.html>

データで見る、クラウド活用状況

パブリッククラウド (IaaS, PaaS) を全社的に活用している企業は、未だに**16%程度**。
事業部で活用しているを含めても、**33%程度**。



出典：DX白書2023：IPA 独立行政法人 情報処理推進機構

<https://www.ipa.go.jp/publish/wp-dx/dx-2023.html>

2. 企業のDX課題の認識

DXの課題 ①DXの対象領域

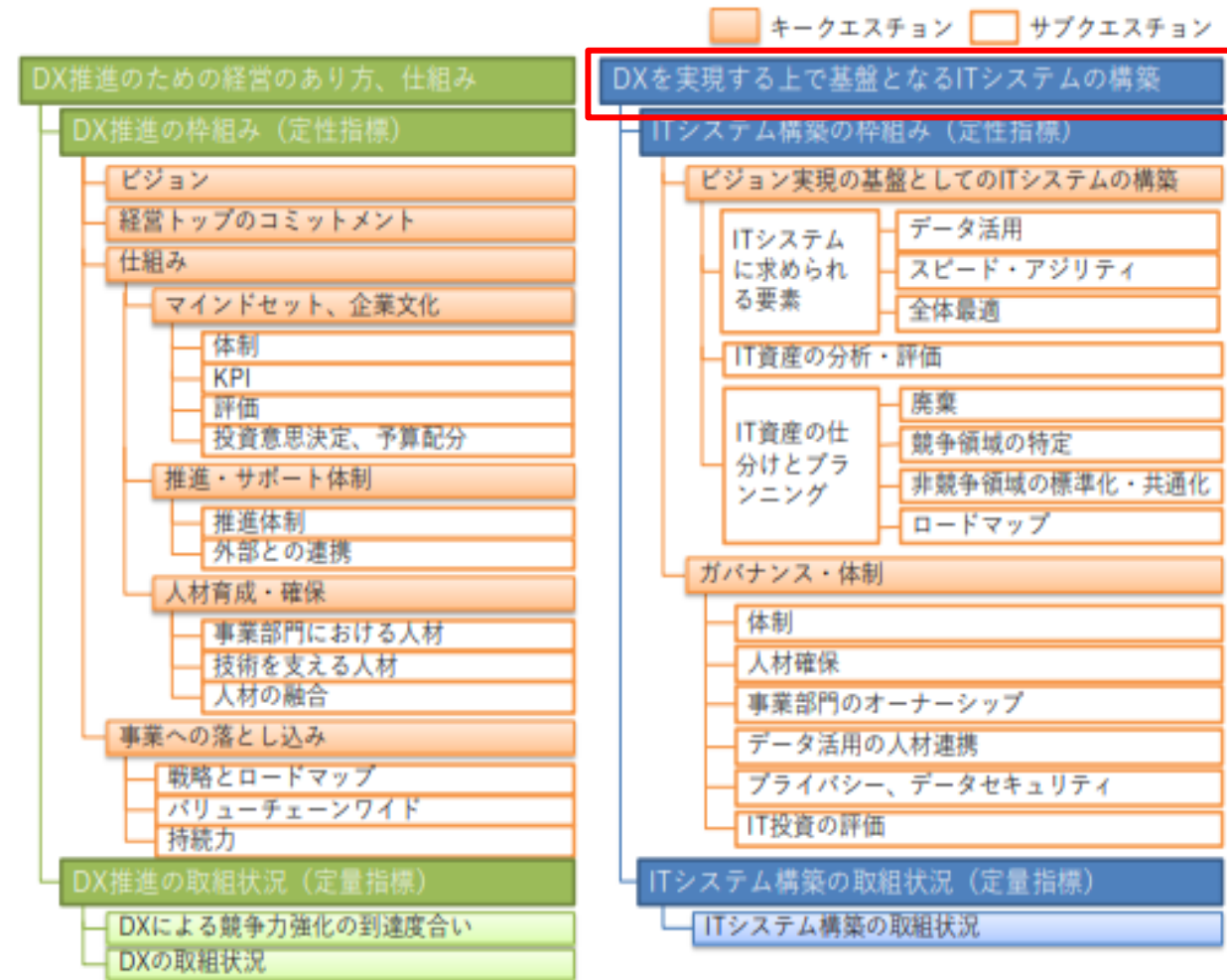
DXを推進する上での目指すべき領域は大きく2つに分類できる。

- DX推進のための経営の在り方、仕組み
- DXを実現する上で基盤となるITシステムの構築

以降、

DXを実現する上で基盤となるITシステムの構築

について扱う。



※出典：産業界におけるデジタルトランスフォーメーションの推進 (METI/経済産業省)
(https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/dx/dx.html)

DXの課題 ②あるべきITシステムを実現する技術要素群

洞察を得る仕組み

データ、アプリケーションレイヤで見る、あるべきITシステム

内製開発力を向上させるために必須となるテーマ

System of Insight

全社戦略に基づくデータ活用

System of Engagement

環境変化への機敏な対応

顧客価値の創出

凡例

××

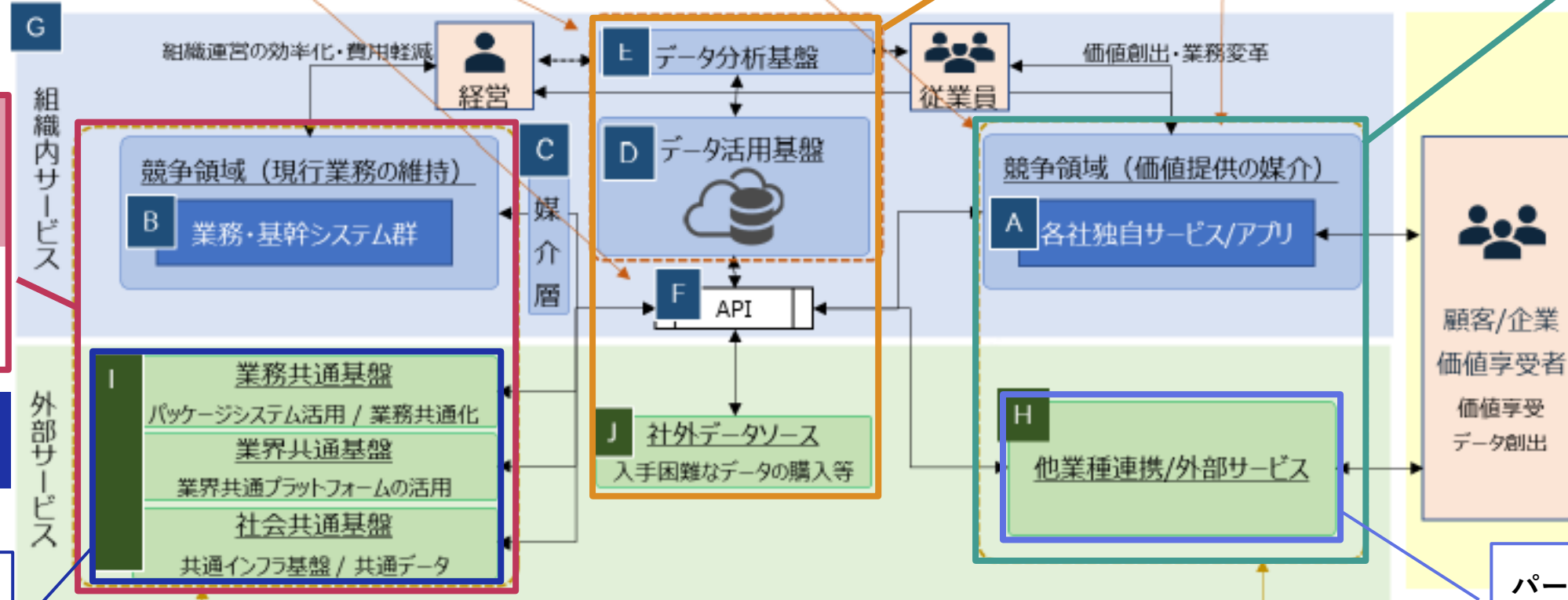
: DXの課題

IoT API データ活用 アジャイル開発 スピード・アジリティを支えるマイクロサービスの活用

System of Record
現行業務データの活用

基幹業務の省力化

標準化・外部リソース活用: SaaS



社会最適を実現するための外部サービスの活用

外部サービスの活用による自社業務の効率化・自社価値の向上

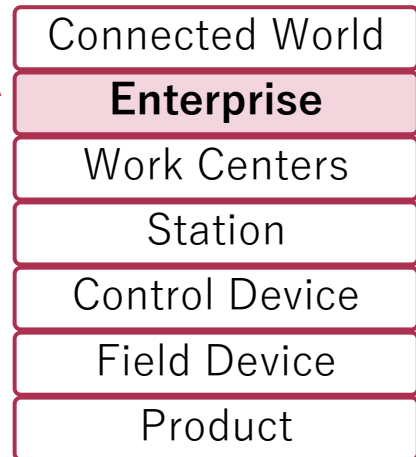
パートナーと組んでスピードアップ: PaaS、コンサルサービスなど

※IPA DX実践手引書 ITシステム構築編 『あるべき IT システムを実現する技術要素群「スサノオ・フレームワーク」』に加筆

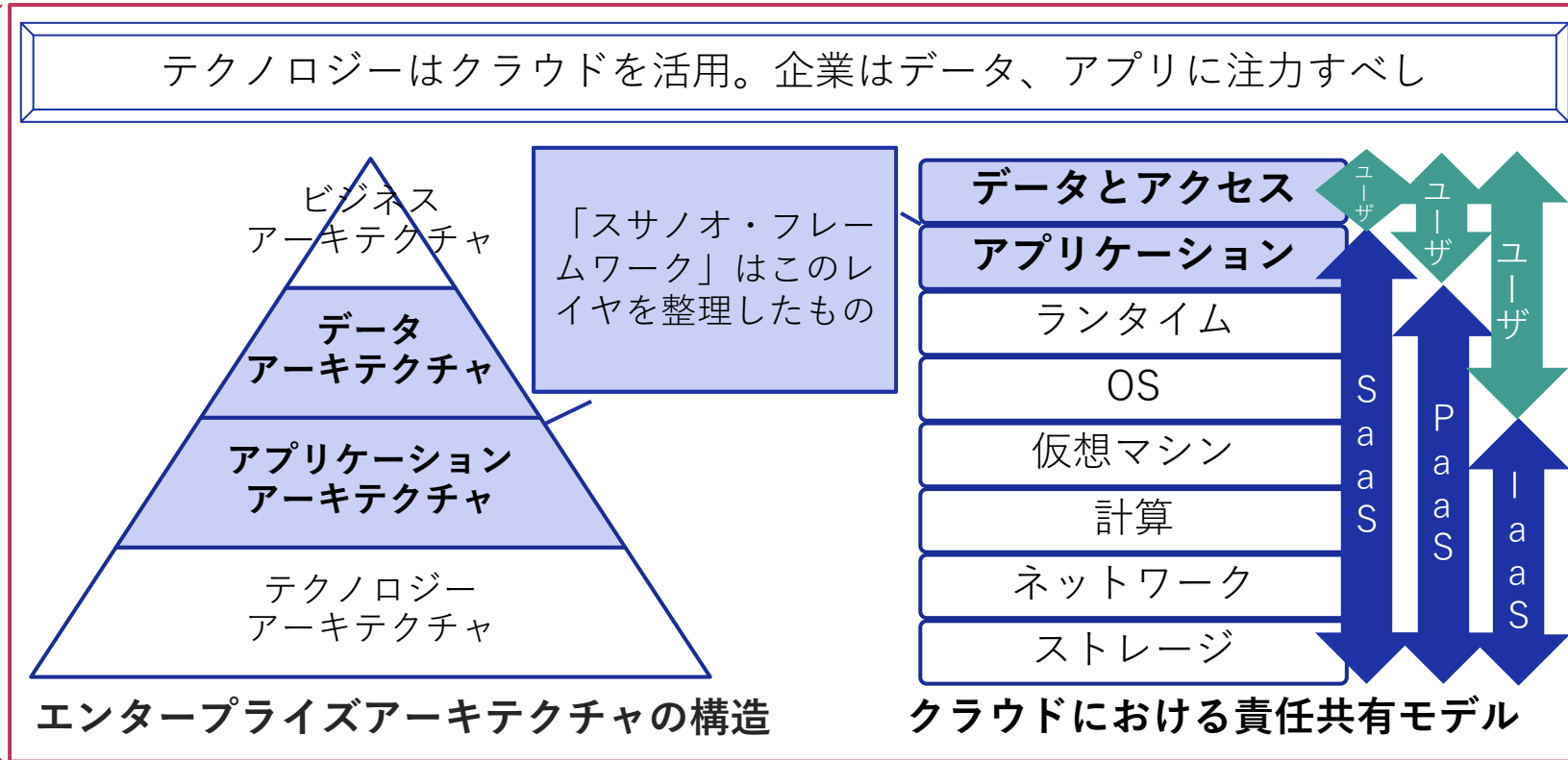
DXの課題 ③ITシステムの構造から見た注力領域

- ◆ 企業のITシステムは、データ、アプリケーション、テクノロジーで構成される
- ◆ 企業は、データ、アプリケーションのレイヤに注力し、
テクノロジー部分はクラウドなどの外部サービスを活用すべき

ここでのITシステムは、主にIoTのEnd-EndでいうとEnterprise(中央のシステム)を指す



RAMI4.0の階層レベル



DXの課題 ④あるべき姿から読み取れる課題

あるべき姿に変わるために
実施すべきポイント

競争領域は、APを組織内で維持、強化（内製開発力とアジリティ向上、強み強化）
協調領域は、外部サービス、外部データソースを活用（効率化、コア領域に注力）

System of Record

基幹業務の省力化

- 協調領域は、共通基盤／外部サービスの活用 ※リソースシフト、リスクリングへ
- 競争領域は、現行業務の維持／データ活用

System of Insight

洞察を得る仕組み

- データ分析・活用基盤の整備／外部サービス活用
- 社外データソースの取り込み

System of Engagement

顧客価値の創出

- 環境変化への機敏な対応
- 協調領域は他業種連携／外部サービス活用

解決策 外部サービスの活用

外部サービスの積極的な活用。その分、企業はコア領域に集中&スピードアップ。

課題
解決策

System of Record

基幹業務の省力化

協調領域は、共通基盤/
外部サービスの活用。
競争領域は、現行業務の維持



外部サービスへの移行、
業務標準化 (SaaS活用)

クラウドリフト、
基幹業務は変えずに外付けで、
データアクセス性向上

System of Insight

洞察を得る仕組み

データ分析/活用基盤の整備
/外部サービス活用、
社外データソースの取り込み



データ活用の仕組み整備
(PaaS、コンサルサービス
などを活用)

API連携による
社外データソースの取り込み

System of Engagement

顧客価値の創出

環境変化への機敏な対応。
協調領域は他業種連携/
外部サービス活用



アーキテクチャ刷新、
手法・組織・マインドの変革

他業種連携/外部サービス
(PaaS、コンサルサービス
などを活用)

3. IPA／経産省DXツールの利用 (社内適用状況)

IPA／経産省DXツール 社内適用状況

自社に対してIPA／経産省のDXツールを積極的に適用（DX推進に活用）

①DX推進状況を年次で把握、②DX Ready事業者として認定、③DX銘柄に選定

①DX推進指標 自己診断を3年連続実施 (2019～2021年)

[DX推進指標 自己診断結果 分析レポート\(2021年版\) :
IPA 独立行政法人 情報処理推進機構](https://www.ipa.go.jp/ikc/reports/20220817.html)

(<https://www.ipa.go.jp/ikc/reports/20220817.html>)



[つかう | DX SQUARE \(ipa.go.jp\)](https://dx.ipa.go.jp/tools/top)

(<https://dx.ipa.go.jp/tools/top>)

②DX認定制度 認定事業者 (2023年2月認定)

[DX認定制度 認定事業者検索 - DX推進ポータル \(ipa.go.jp\)](https://disclosure.dx-portal.ipa.go.jp/p/dxcp/list?search=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E9%9B%BB%E6%B0%97%E6%A0%AA%E5%BC%8F%E4%BC%9A%E7%A4%BE&ym=202302&active=true)

(<https://disclosure.dx-portal.ipa.go.jp/p/dxcp/list?search=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E9%9B%BB%E6%B0%97%E6%A0%AA%E5%BC%8F%E4%BC%9A%E7%A4%BE&ym=202302&active=true>)



[つかう | DX SQUARE \(ipa.go.jp\)](https://dx.ipa.go.jp/tools/top)

(<https://dx.ipa.go.jp/tools/top>)

③DX銘柄 DX銘柄2021選定企業

[「DX銘柄2021」「DX注目企業2021」を選定しました！
\(METI/経済産業省\)](https://www.meti.go.jp/press/2021/06/20210607003/20210607003.html)

(<https://www.meti.go.jp/press/2021/06/20210607003/20210607003.html>)



[デジタルトランスフォーメーション銘柄
\(DX銘柄\) \(METI/経済産業省\)](https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/investment/keiei_meigara/dx_meigara.html)

(https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/investment/keiei_meigara/dx_meigara.html)

4. IPAツール活用事例

IPAツール活用事例 サービス業A社 クラウド導入検討

ITシステムに対して、従来のIT評価ツールと合わせて**IPAツールによる評価を実施**
問題点と課題を見える化し、対策・役割分担・実施ステップをロードマップ化

実施内容

1. DX実現の基盤となるITシステムを、従来のIT評価ツール、**IPAツールで現状評価**（A社と連携しながらNECにて実施）。
2. 評価結果を分析して、問題点を抽出し、それぞれの**課題、対策案を立ててテーマ別に分類**。
3. テーマ別対策案の相関関係と優先順位決め、**実施ステップを具体化**。情シス、業務部門の役割分担を決定。
（**ロードマップ化**）

抽出したITの課題（一部抜粋）

- ✓ **環境変化に迅速に対応**し、求められるスピードでデリバリーできるシステム基盤を準備する。
- ✓ **部門を超えてデータを活用**可能なデータ蓄積基盤を構築する。
- ✓ **IT資産の全体像を把握**し、分析・評価する（AP利用状況、技術的陳腐化度合い、サポート体制の継続性等）。
- ✓ 全社最適の視点から、**システム基盤の標準化、共通化**を推進し、個別最適な仕組みを排除する。

振り返り

良かった点

- 従来のIT評価ツールにはなかったデータ活用、スピード・アジリティなどの**DXならではの評価視点を補完**できた。
- IPAが推奨するツールであり、**客観性が高い評価**ができた。

工夫が必要

- 評価項目が多いと時間がかかる**ため、企業の現状に応じて工夫が必要。

※従来のIT評価ツールの視点：
戦略、組織、システム、運用、施設、コスト

Orchestrating a brighter world **NEC**

IPAツール 使用した評価項目一覧

No.	評価項目	
8	ビジョン実現の基盤としてのITシステムの構築	ビジョン実現（価値の創出）のためには、既存のITシステムにどのような見直しが必要であるかを認識し、対応策が講じられているか。
8-1	データ活用	データを、リアルタイム等使いたい形で使えるITシステムとなっているか。
8-2	スピード・アジリティ	環境変化に迅速に対応し、求められるデリバリースピードに対応できるITシステムとなっているか。
8-3	全社最適	部門を超えてデータを活用し、バリューチェーンワイドで顧客視点での価値創出ができるよう、システム間を連携させるなどにより、全社最適を踏まえたITシステムとなっているか。
8-4	IT資産の分析・評価	IT資産の現状について、全体像を把握し、分析・評価できているか。 （視点： アプリケーション単位での利用状況、技術的な陳腐化度合い、サポート体制の継続性等）
8-5	廃棄	価値創出への貢献の少ないもの、利用されていないものについて、廃棄できているか。
8-6	競争領域の特定	データやデジタル技術を活用し、変化に迅速に対応すべき領域を精査の上特定し、それに適したシステム環境を構築できているか。
8-7	非競争領域の標準化・共通化	非競争領域について、標準パッケージや業種ごとの共通プラットフォームを利用し、カスタマイズをやめて標準化したシステムに業務を合わせるなど、トップダウンで機能圧縮できているか。
8-8	ロードマップ	ITシステムの刷新に向けたロードマップが策定できているか

No.	評価項目	
9	ガバナンス・体制	ビジョンの実現に向けて、IT投資において、技術的負債を低減しつつ、価値の創出につながる領域へ資金・人材を重点配分できているか。 （「技術的負債」： 短期的な観点でシステムを開発し、結果として、長期的に保守費や運用費が高騰している状態のこと）
9-1	体制	ビジョンの実現に向けて、新規に投資すべきもの、削減すべきもの、標準化や共通化等について、全社最適の視点から、部門を超えて横串的に判断・決定できる体制を整えられているか。 （視点： 顧客視点となっているか、サイロ化していないか、ベンダーとのパートナーシップ等）
9-2	人材確保	ベンダーに丸投げせず、ITシステムの全体設計、システム連携基盤の企画や要求定義を自ら行い、パートナーとして協創できるベンダーを選別できる人材を確保できているか。
9-3	事業部門のオーナーシップ	各事業部門がオーナーシップをもって、DXで実現したい事業企画・業務企画を自ら明確にし、完成責任まで負っているか。
9-4	データ活用の人材連携	「どんなデータがどこにあるかを分かっている人」と「データを利用する人」が連携できているか。
9-5	プライバシー、データセキュリティ	DX推進に向け、データを活用した事業展開を支える基盤（プライバシー、データセキュリティ等に関するルールやITシステム）が全社的な視点で整備されているか。
9-6	IT投資の評価	ITシステムができたかどうかではなく、ビジネスがうまくいったかどうかで評価する仕組みとなっているか。

IPAツール評価 実施内容1~2 サンプルイメージ

成熟度					
レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
未着手 (経営者は無関心か、関心があっても具体的な取組に至っていない)	一部の散発的実施 (全社戦略が明確でない中、部門単位での試行・実施に留まっている)	一部の戦略的実施 (全社戦略に基づく一部の部門での推進)	全社戦略に基づく部門横断的推進	全社戦略に基づく持続的実施 (定量的な指標等による持続的な実施)	グローバル市場におけるデジタル企業 (デジタル企業として、グローバル競争を勝ち抜くことのできるレベル)

A社からの情報をもとに評価を実施。
成熟度レベル0,1,2の部分を問題ありとして課題を検討、整理。

- DX実現の基盤となるITシステムを、IT評価ツール、**IPAツールで現状評価** (A社と連携しながらNECにて実施)。
- 評価結果を分析して、問題点から**課題を抽出**し、それぞれの**対策案を立ててテーマ別に分類**。

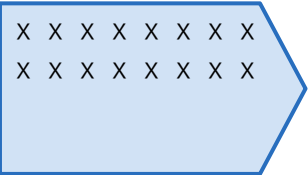
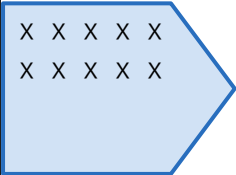
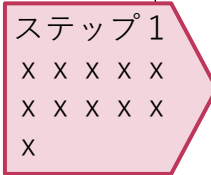
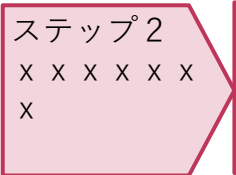
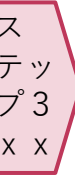
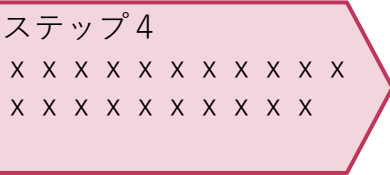
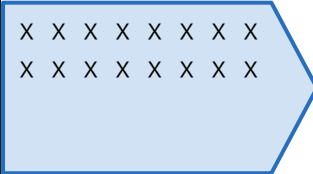
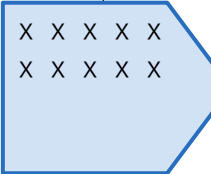
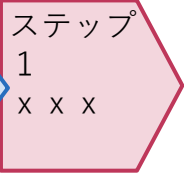
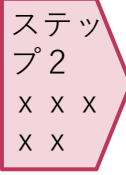
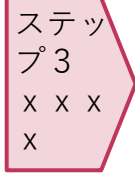
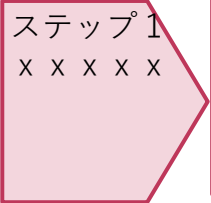
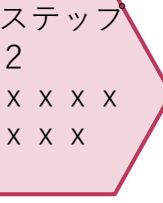
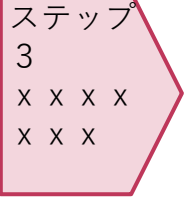
No.	評価項目	成熟度レベル コメント	担当部門	問題点	課題	対策期間			区分	対策案	テーマ		
						短期	中期	長期					
2	スピード・アジリティ	成熟度レベル: 2 X X X X X X X X X	A部門 情シス部門	X X	環境変化に迅速に対応し、求められるデリバリースピードに対応できるシステム基盤を準備する。		◎		システム	システム基盤提供期間の短縮	システム基盤提供期間の短縮	◎	
3	全体最適	成熟度レベル: 2 X X X X X X X X X	A部門 B部門 情シス部門	X X X X X X X X X X X X X X X X X X X	部門を超えてデータを活用可能なデータ蓄積基盤を構築する。		◎		システム	データ活用機能強化	データ活用基盤の整備		◎
4	IT資産の分析・評価	成熟度レベル: 2 X X X X X X X X X X X X X X X X	情シス部門	X X X X X X X X X X X X X X X X X X X X	IT資産の現状について全体像を把握し、分析・評価する。(AP単位での利用状況、技術的な陳腐化度合い、サポート体制の継続性など)	◎			運用	全社でのIT資産管理方法の確立	全社IT資産の見える化		◎
7	体制	成熟度レベル: 2 X X X X X X X X X	A部門 B部門 情シス部門	X X	全体最適の視点から、システム基盤の標準化や共通化を推進し、個別最適な仕組みを排除する。		◎		システム	システム基盤の標準化	システム基盤提供期間の短縮		◎



No.	課題	区分	テーマ	対策案	対策期間		
					短期	中期	長期
2	環境変化に迅速に対応し、求められるデリバリースピードに対応できるシステム基盤を準備する。	システム	システム基盤提供期間の短縮	システム基盤の標準化		◎	
7	全体最適の視点から、システム基盤の標準化や共通化を推進し、個別最適な仕組みを排除する。	システム	システム基盤提供期間の短縮	システム基盤の標準化			◎
3	部門を超えてデータを活用可能なデータ蓄積基盤を構築する。	システム	データ活用基盤の整備	データ活用機能強化		◎	
4	IT資産の現状について全体像を把握し、分析・評価する。(AP単位での利用状況、技術的な陳腐化度合い、サポート体制の継続性など)	運用	全社でのIT資産の見える化	全社でのIT資産管理方法の確立	◎		

IPAツール評価 実施内容3 サンプルイメージ

3. テーマ別対策案の実施ステップを具体化。相関関係と優先順位決め、情シス、業務部門の役割分担を決定。（ロードマップ化）

マイルストーン				フェーズ1		フェーズ2			
				グランドデザイン/仕様作成		環境構築	試行		
区分	テーマ名	対策名	担当部門	2022上期	2022下期	2023上期	2023下期		
システム	システム基盤提供期間の短縮	システム基盤の標準化	情シス						
	データ活用基盤の整備	データ活用機能強化	A部門						
運用	全社IT資産の見える化	全社でのIT資産管理方法の確立	情シス						

ここまでのまとめ

1. 世の中のDXの現状
2. **企業のDX課題の認識**
3. IPA／経産省DXツールの利用
(社内利用状況)
4. **IPAツール活用事例**
5. NECのDXソリューションの紹介

DXを実現する上で基盤となる
ITシステムのあるべき姿と
そこから導かれる企業のDXの課題

- 競争領域は、APを組織内で維持、強化
(内製開発力とアジリティ向上、強み強化)
- 協調領域は、**外部サービス、外部データ
ソースを活用 (効率化、コア領域に注力)**

企業へのIPAツール適用事例のご紹介

- ITシステムに対して、従来のIT評価ツールと
合わせてIPAツールによる評価を実施
- **問題点と課題を見える化し、対策・
役割分担・実施ステップをロードマップ化**

5. NECのDXソリューションの紹介

DX課題を解決するNECのオフリング

Ready madeのサービスで試行錯誤を最小限に！

<https://jpn.nec.com/dx/offering/index.html>



経営戦略



DX推進の構想策定/ クラウドジャーニー

- DX戦略・構想策定コンサルティング・サービス
- DX課題クイックアドバイス・サービス
- デジタルシフト構想策定支援・サービス
- **クラウド導入プランニング**

DX人材の育成/ IT人材の アウトソーシング

- DX人材育成共創サービス
- NECアカデミー for DX
- マルチクラウド運用サービス

人材



テクノロ ジー



実績豊富な クラウド活用 ノウハウを濃縮

- クラウド型仮想デスクトップサービス
- Serverクラウドリフト
- パブリッククラウド接続サービス
- NECデータセンター（エコシステム）

DX戦略と並走し、実現に向けたクラウドジャーニーを設計 移行基準を策定してクラウド導入をプランニング



クラウド導入プランニング

基本計画策定 実施概要

現状調査

現行システムの概要、更新時期、リソース状況の整理

システム移行方針検討

システム特性から見たクラウド化対象システムの決定

運用業務移行方針検討

構築～保守フェーズ全般に関わる役割分担の決定

サービス利用方針検討

利用者に提出するサービス範囲、サービスレベルの方針決定

費用効果算定

クラウドのライフサイクルを通じた費用対効果検証



関連サイト、問い合わせ先

関連Webサイト

クラウド導入プランニング

<https://jpn.nec.com/cloud/service/migration.html>



導入・運用 >

マルチクラウド運用サービス >

クラウド導入プランニング



マルチクラウド運用サービス

<https://jpn.nec.com/cloud/service/mng.html>



マルチクラウド運用サービス

クラウド全般

<https://jpn.nec.com/cloud/index.html>



お問い合わせ

service-consulting@spsi.jp.nec.com

\Orchestrating a brighter world

NECは、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、
誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指します。

\Orchestrating a brighter world

NEC